（別紙4）　　令和　4　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2190100160		
法人名	有限会社マイハウス		
事業所名	グループホーム　マイハウスあつみ（ユニットあつみ）		
所在地	岐阜市朝霧町34番地		
自己評価作成日	令和4年11月25日	評価結果市町村受理日	令和5年2月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2190100160-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社　中部評価センター
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566－1
訪問調査日	令和4年12月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

今年の10月に新型コロナウイルス感染者が出ましたが、迅速な対応により、重症者も出ず、蔓延を防ぐことができました。どうしても職員からの感染を防ぐことができないのが課題です。定期的にPCR検査を実施しています。
現在、ホーム周りの散歩程度しか外へ出る機会はありませんが、利用者さん達は風邪もひかず、とても元気です。クッキーや干し柿作りをしたり、利用者さんのリクエストに応えて献立を決めたり、時には愚痴を聞いたりしつつ、ストレスが溜まらないよう、接しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

法人理念に謳う「できる喜び　自分でできる・・・」に沿って、利用者の自立した生活を支援している。利用者の自主性を尊重し、意思が明確に表出できる利用者には、それを叶える支援をしている。「うなぎ料理を持ってきて」や「〇〇が食べたい」と、家族にメッセージを送る利用者もいる。通販カタログで好みの衣料品を選び、職員を介して家族が購入し、それを利用者に届けている。希望して、毎晩（夕食時）焼酎のお湯割りで晩酌を楽しむ利用者もいる。
それぞれのユニットに、利用者をまとめるリーダー的な存在の人が育ってきた。周りへの気配りができ、他の利用者からも信頼されている。彼が率先垂範し、食事に関する手伝い（食器洗い等）は当番制で行われている。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに〇印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		〇	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	〇	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	〇	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	〇	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		〇	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	〇	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		〇	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに〇印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		〇	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
		〇	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
		〇	4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）	〇	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	〇	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	〇	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「出来る喜び、楽しくて明るい健康的な生活、急がずゆっくり」 を理念としており、職員は理念にそって実践している	利用者の自立した生活を支えるため、自主性を尊重した支援を実践している。それ故か、利用者の中からリーダー的な存在感を示す人が出てきた。彼（男性利用者）の気配りで、ユニットが回っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年もコロナの影響で、町内の行事が中止になったので、交流がない	コロナ禍によって、町内会の行事がほとんど中止となっている。利用者が楽しみにしている祭礼の子ども神輿は、今年もやってこなかった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々との交流もできていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年、一度も開催していない	当ホームだけでなく、法人内の他ホームでコロナの感染が拡大したりクラスターの発生があったりして、運営推進会議の開催機会を逃した。	対面での開催はできずとも、書面にてホームの運営状況を報告すること（書面会議の開催）が求められる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者の方に電話等で連絡をとり様々な内容に対応していただいている	行政との渉外は法人代表の役割りとなっている。コロナに関する県や市への報告や関連備品の受け取りも法人代表が担当した。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	徘徊や、自分で動くと危険な利用者に対しては特にきめ細かな声かけと見守りを行っている	現在身体拘束を必要とする利用者はいないが、威圧的な言葉や指示的な言い回しにならないよう注意している。利用者が他人の居室に入らないよう、居室に利用者がいないことを確認して外から鍵をかけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	ミーティング等で話し合いの機会をもち、職員一人一人の意識を高めるよう努めている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な方の支援は代表者が対応している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に事業所の考え方や対応可能な範囲・転倒骨折のリスク等の説明を行い、理解していただけるよう図っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言動や家族からの意見に耳を傾けミーティング等で話し合っている	おむつやパッド、日用雑貨の代金は現金で徴収しており、その際に家族から意見や要望を聞き取っている。現在家族面会は、玄関で5分間程度、フェイスシールドを双方が着用して行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者やケアマネを交えてのミーティングで意見を聞いたり話し合いを行っている	コロナ対応では職員の協力が大きかった。感染の拡大を防ぐためにユニットごとに職員を固定し、感染していない正規職員だけで勤務シフトを回した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の保持する資格や実績に応じて給与水準・職能手当等条件の整備がなされており、職員も向上心を持って働いている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者の指導の下、働きながらトレーニングは行っているが、法人外の研修へは参加できていない		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、同業者との交流を積極的に行い、情報交換をしている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に自宅や病院等を訪問し、本人やご家族にあってアセスメントを行っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームを見学して頂いたり、現在の状況や要望等を聞くように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族との話し合いで、対応できることがあれば、支援できる体制になっている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分のことや手伝い等、出来ることはやって頂き活躍の場面を作っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とのコミュニケーションを大切にし、本人の希望に添えるよう努めている 本人が欲しい物や食べたい物を差し入れてもらっている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話・メール等で出来るだけ継続の支援をしている	13名の利用者が、家族の協力を得て馴染みの美容院や理髪店に出かけている。希望はあるが、理美容外出時に他の場所（馴染みの飲食店等）への立ち寄りは認めていない。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関わり方に配慮しながら良い関係が維持できるよう橋渡しをしている 口論が絶えない利用者さんのユニット間移動を行った		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談や支援ができる体制になっている		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いをよく聴き、ご家族にも協力してもらい、環境を整えている	意思疎通が十分に図られている利用者が多い。通販カタログを見て、好みの衣料品を職員に告げている。職員から連絡を受け、家族が希望の品を取り寄せて利用者に届けに来る。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接でのアセスメントや本人・ご家族・関係者からの情報を基に状況の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録や業務日誌に記録し、申し送りにて把握している ミーティングの場で利用者担当が提案し、情報を共有している		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者担当者がアセスメントを行い、ミーティング時に代表者・ケアマネ・職員全員で話合っている 利用者家族との面談にて要望を聞き、本人の意向を基に作成している	うつ症状になると頭痛を訴える利用者がおり、「薬が欲しい」が主訴となっている。協力医と相談し、偽薬（フリスク、ラムネ等）を服用してもらっている。それで症状は治まる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録・業務日誌にて、身体状況や生活の様子を職員全員で確認している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	主治医の往診や訪問看護・歯科往診他医療機関の受診、介護用品購入支援等、様々なサービスを取り入れている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要があれば、活用できるようにしたいが、コロナ禍にある為、難しい		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間ごとの定期往診に加えて緊急時の往診・24時間電話での対応・総合病院との連携等適切な医療が受けられるようになっている	利用者全員がホーム協力医をかかりつけ医とし、2週に1度の訪問診療を受けている。同じく2週に1度の訪問歯科診療や、月に1度の訪問看護師の来訪（健康管理）がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月に1度の訪問看護師の訪問があり、相談にのっていただいており必要に応じて主治医と連携している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者、家族とのカンファレンスにて話し合いを持っている 代表者が医療関係者との良好な関係作りを行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方について契約時に家族に充分な説明をしている 主治医・訪問看護師が家族に状態説明を行い、事業所としてどこまで支援できるかを話し合っている	ホーム開設以来「看取りはしない」方針を貫いており、利用開始時に利用者・家族に説明して同意を得ている。重度化や医療行為の必要性、経済的な理由等々で病院、特養施設に移行しているが、適切な住み替えとなるようホームも協力している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、徹底するよう努めている 初期対応の実践も行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っており、地域の方々にも災害時の協力をお願いしている また、地域の方が一時避難場所としてホームを利用できるようにしていけるよう話し合っている	水害が若干心配される地域であり、2階への垂直避難の訓練として、階段の昇降リハビリを行っている。2階ユニットの利用者は、屋外の避難階段を使って避難する訓練も行っている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの個性を大切にし、その方に合った対応をしている	自身の居室が分からず、他人の居室（無人）に入ってしまい利用者間のトラブルとなった。居室内に利用者のいないことを確認し、プライバシーの保護のために職員が外鍵をかけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の訴えを聴き、また表情や行動からもその想いを汲み取れるように努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調などを配慮しながら自分でできる事を本人のペースに合わせて行っていただいている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容院に出掛けて行き、好みの髪型にしてもらっている 訪問美容も利用再開した		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みの料理や手作りのおやつを提供しており、時には一緒にタコ焼きやお好み焼き作りを楽しんでいる 野菜の下ごしらえ・盛り付け・食器拭き等、一緒に行っている	食材に拘り、3食手作りの食事を提供している。陽気の良い時には、1階テラスに2ユニットの利用者全員が集まり、合同で食事を摂ることもある。本人希望で、毎晩焼酎のお湯割りで晩酌を楽しむ利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分摂取量を毎食記録し、月一回の体重測定にて増減をチェックし、食事量等、調整している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声かけ・介助をしている 夜間は義歯の洗浄と保管を行っている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の残存機能を生かし、状況に応じた声かけや見守り・介助を行っている	2階ユニットでは、3名の利用者が排泄自立しており、他の利用者は声掛けや誘導、パッド交換等の支援を受けている。排泄チェック表を基に、トイレでの排泄を基本として支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録を作成し、運動や水分摂取・腹部マッサージ等行い予防に努めている オリゴ糖入りのカスピ海ヨーグルトを毎日提供している 便秘症の方は便通剤の調整を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯は決まっているが、体調や気分に配慮し楽しんで入浴できるよう支援している	隔日、週に3日の入浴支援を行っている。入浴拒否や異性介助の問題はなく、利用者は穏やかでゆったりとした入浴を楽しんでいる。肌のトラブル防止のため、入浴剤は使用していない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日の生活リズムを大切にすると共に就寝前に飲み物を提供したり、居室の温度や寝具にも気を配っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情書を見ながら症状の変化をチェックしている 薬剤師や主治医からも薬の副作用等聞いて知識を得ている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きを当番制で行い、洗濯物干しやたたみはすすんで行っている 貼り絵や塗り絵をしたり、ゲームを楽しんでいる 利用者全員で雑巾縫いをしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍にある為、外泊・外食・買い物は自粛しているが、美容院は行っていただいている	コロナ感染の防止のため、散歩と美容院外出以外の外出支援を自粛している。美容院外出に際しても、途中で他の場所（飲食店等）へ立ち寄ることを禁止している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの方が自分で金銭管理ができない為、家族に管理していただいている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	直接電話で話しをしていただいている 家族さんからお誕生日カードなどが届いている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適に過ごせるよう室温や照明を調節したり、個々の状態に応じてリビングやダイニングの座る場所に配慮している また、利用者の作品や季節の飾り物を展示している	新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、共用空間への立入りを自粛した。コメントなし。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に好きな場所へ移動して過ごしたり、他の利用者との会話を楽しんで頂いている テラスに出て外を眺められるようになっている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた家具や衣類・飾り物等を持ち込まれる方もある また居室の掃除や持ち物の整理等本人が出来ない部分を職員が行っている	新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、居室の見学を自粛した。コメントなし。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関アプローチ・建物周囲・廊下・トイレ・居室等、安全に利用できるよう手すりやベンチを設置している		

（別紙4）　　令和　4　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2170102301		
法人名	有限会社マイハウス		
事業所名	グループホーム　マイハウスあつみ（ユニットあさぎり）		
所在地	岐阜市朝霧町34番地		
自己評価作成日	令和4年11月25日	評価結果市町村受理日	令和5年2月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2190100160-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社　中部評価センター
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566－1
訪問調査日	令和4年12月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

今年の2月に、新型コロナウイルス感染によるクラスターが発生し、利用者2名が亡くなりました。知識不足が大きな原因だった為、その後、感染対策について周知徹底を図りました。
現在、男性4名、女性5名で、そのうち90歳超えの方は2名おられます。みなさんお元気で、塗り絵、パズル、カード取りゲームなど行い、和気あいあいとした中で過ごされています。お天気の良い日は散歩へ出かけ、気分転換も図っています。
できる喜び・自分でできる・楽しく明るい生活を理念とし、毎日過ごして頂く様、支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
		○	4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「出来る喜び、楽しくて明るい健康的な生活、急がずゆっくり」 を理念としており、職員は理念にそって実践している		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年もコロナの影響で、町内の行事が中止になったので、交流がない		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々との交流もできていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年は、一度も開催できていない		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者の方に電話等で連絡をとり様々な内容に対応していただいている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	徘徊や、自分で動くと危険な利用者に対しては特にきめ細かな声かけと見守りを行っている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	ミーティング等で話し合いの機会をもち、職員一人一人の意識を高めるよう努めている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な方の支援は代表者が対応している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に事業所の考え方や対応可能な範囲・転倒骨折のリスク等の説明を行い、理解していただけるよう図っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言動や家族からの意見に耳を傾けミーティング等で話あっている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者やケアマネを交えてのミーティングで意見を聞いたり話し合いを行っている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の保持する資格や実績に応じて給与水準・職能手当等条件の整備がなされており、職員も向上心を持って働いている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人員不足の為、法人内外の研修は行えていないが、働きながらトレーニングに努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、同業者との交流を積極的に行い、情報交換をしている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に自宅や病院等を訪問し、本人やご家族に会ってアセスメントを行っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームを見学して頂いたり、現在の状況や要望等を聞くように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族との話し合いで、対応できることがあれば支援できる体制になっている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分のことや手伝い等、出来ることはやって頂き生活意欲の向上に努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とのコミュニケーションを大切にし、本人の希望に添えるよう努めている		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話・メール等で出来るだけ継続の支援をしている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関わり方に配慮しながら良い関係が維持できるよう橋渡しをしている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	行っていない		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いをよく聴き、意思疎通が困難な方には表情や行動などから思いを汲み取り対応している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接でのアセスメントや本人・ご家族・関係者からの情報を基に状況の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録や業務日誌に記録し、申し送りにて把握している ミーティングの場で利用者担当から提案し、情報を共有している		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者がアセスメントを行い、ミーティング時に代表者・ケアマネ・職員全員で話合っている 利用者家族との面談にて要望を聞き、本人の意向を基に作成している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録・業務日誌にて、身体状況や生活の様子を職員全員で確認している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	主治医の往診や訪問看護・歯科往診・他医療機関の受診、介護用品購入支援等様々なサービスを取り入れている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要があれば活用できるようにしたいが、コロナ禍にある為難しい		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間ごとの定期往診に加えて緊急時の往診・24時間電話での対応・総合病院との連携等適切な医療が受けられるようになっている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月に一度訪問看護師に来てもらい、必要に応じて主治医と連携している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者、家族とのカンファレンスにおいて話し合いをしている 代表者が医療関係者との良好な関係作りを行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方について契約時に家族に充分な説明をしている 主治医・訪問看護師が家族に状態説明を行い、どこまで事業所で支援できるかを話し合っている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、徹底するよう努めている 初期対応の実践も行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行っており、地域の方々にも災害時の協力をお願いしている また、地域の方が一時避難場所としてホームを利用できるようにしていけるよう話し合っている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人の個性を大切にし、その方に合った対応をしている 男性の利用者さんの入浴介助に配慮している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の訴えを聴き、また表情や行動からもその想いを汲み取れるように努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調などを配慮しながら自分でできる事を本人のペースに合わせて行っていただいている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じた服装や好みのものを選んで頂いている 美容院へは行って頂いている ご家族が訪問美容を依頼している方もある		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みの料理や手作りのおやつを提供している 野菜の下ごしらえ・食器拭き等、一緒に行っている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分摂取量を毎食記録し、月一回の体重測定にて増減をチェックし、食事量等、調整している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声かけ・介助をしている 夜間は義歯の洗浄と保管を行っている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の残存機能を生かし、ポータブルトイレを使用したり状況に応じた声かけや見守り・介助を行っている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録を作成し、運動や水分摂取・腹部マッサージ等行い予防に努めている 便秘症の方は便通剤の調整を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調や気分に配慮し楽しんで入浴できるよう支援している		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日の生活リズムを大切にすると共に就寝前の雰囲気作り、居室の温度や寝具にも気を配っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情書にて確認し症状の変化をチェックしている ミーティングの場で代表者より薬についての説明がある		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや食器拭き等、男性利用者にも手伝っていただいている 毎日晩酌を楽しまれている方もいる		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍にある為、外泊・外食・買い物は自粛しているが、美容院へは行っていただいている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で金銭管理ができない方がほとんどなので家族の方が管理している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人・知人からの電話に出て頂いている 携帯電話を持っておられる方もあり、自由に電話をかけておられる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適に過ごせるよう室温や照明を調節したり、個々の状態に応じてリビングやダイニングの座る場所に配慮している また、利用者の作品や季節の飾り物を展示している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に好きな場所へ移動して過ごしたり、他の利用者との会話を楽しんで頂いている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた家具や衣類・飾り物等を持ち込まれる方もある また居室の掃除や持ち物の整理等本人が出来ない部分を職員が行っている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関アプローチ・建物周囲・廊下・トイレ・居室等、安全に利用できるよう手すりやベンチを設置している		